

座談会

「歌は世につれ…」歌姫 4 人が語る

「音楽人生」& 曲の「ちから」

すすきのにとって酒と歌が、欠かせないの言うまでもない。

そこでネオンの舞台を演出する歌姫 4 人に、音楽にかける人生観や歌が持つ魅力について語ってもらった。

〔ジャスマックプラザ〕で収録

「替え歌」でチップ舞う

— 歌を始めたきっかけは？

岩崎 母はピアノが得意でしたが、私は向いてなくて。母は仕事で忙しく、私は祖母に付いて老人クラブでやっていたことを一緒に…。

エスミ えっ、そうなの。

岩崎 4 歳から 11 歳まで詩吟や民謡、日本舞踊を。あとゲートボールやマージャンも（笑）
NORI 私の父は建築の商売やっていて私は 4、5 歳の頃から父

の晩酌で歌っていました。

荒木 どんな歌を？

NORI 父のリクエストで美空ひばりの演歌とか、都々逸とか。本当はピンクレディーとか、歌いたかったんですが、私の歌を聴くと家族が笑ってくれるので楽しかった。

エスミ 私は実家が農家で、自宅にはラジオとギターしかなく、父はギターを弾いて母とデュエットしていました。

岩崎 フィリピンの歌を？

エスミ いいえ。フィリピンはアメリカの占領下の歴史があつて、私が生まれる前は、フィリピンの歌を歌っちゃダメという時代もあったんです。ラジオから流れる曲は、アメリカンポップス、父母が歌うのはスペインの曲でした。

NORI 大変な時代でしたね。
エスミ はい。その頃聴いた曲を覚えていて、16、17 歳の頃、歌のア

ルバイトを始めたのがきっかけです。ギターでアメリカンポップスの『カントリーロード』とか、歌っていました。

荒木 私の場合、祖父も父も歯科医で、祖父が詩吟の先生、父は「ドクターサンズ」というバンドを組んで診療所の待合室で練習したり…。

NORI 私たちは皆、家庭の影響が大きい。
荒木 はい。私も小さい頃から『北上夜曲』とか古い曲を覚えました。
NORI 秋田音頭で

芸者遊びのエッチな替え歌があるんです。それを父が歌っていたのを覚えていて私、秋田県のデイナーショーで歌ったんです。

荒木 ウケたでしょ。

NORI はい。地元の人が言うには、その歌は替え歌で唯一、無形文化財になっていると。歌った途端、チップが舞いました（笑）

荒木 うわあー。
NORI 父の歌がこんなところで役に立つとは、驚きでした。

